

## ●「保護者と教師は運命共同体」の認識

マスコミなどで、日本の学校は保護者と教師が敵対しているかのように報道されることが多いのですが、広尾学園では、保護者と教師は共通の利害関係に立っている（運命共同体である）ことの認識を、大切にしています。医師が、患者やその親族から信頼されていない場合には有効な医療活動ができないように、教師も生徒・保護者から信頼されていないと、有効な教育活動ができないからです。

また、生徒・保護者に対して、「学校は何をしてくれるか？」という前に「生徒として／親として 何を一緒にできるか？」を考えてもらうよう頼んでいます。新入生は4月、長野県にある学園の研修施設で3日間合宿し、「クラスの目標と自分の目標」を定めさせるようにしています。

私たちはさらに、学園周辺の商店街や居住者の皆さんとも協力して、「広尾駅周辺」の環境整備やイベントにも取り組んでいます。「インターナショナル・コース (IB 準拠)」や英語補習校も、最初は港区に住む帰国家庭や外国人家庭を想定して始めたことです。「学園に関わる全ての人たちで、生徒の充実した学園生活と将来の夢の実現を願う」という共通理解が浸透しているのです。



インターナショナル・コース (10年生・女子2名) の入学式

### 小山 和智

おやま かずとも

広尾学園中学校高等学校 国際担当  
(前、順心女子学園)



海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。

現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/>

## 英語補習校だより (9)

### 不適切な表現？

英語補習校では、年齢相応のものの方見方や、論理的な思考・表現力が身につくことを目指していますが、保護者の方からこんなお便りをいただきました。

「子供たちがどのような宿題を与えられているかご存知でしょうか？『バスジャック』『市長が撃たれて死亡』『バグダッドのテロ』... 内容があまりにも暗く、また子供にとっては決してプラスになるようなものではないのです。しかも、この年齢の子供に政治腐敗などを理解するのは、到底無理な話だと思います。」

課題は、私も事前に確認しています。確かに深刻なトピックスも少なくないのですが、アメリカの現地校のGr. 3・4でも当たり前のように取り上げられる話題です。新聞記事もスチューデント・タイムスなどからもってきていますし、映画や舞台、芸術関係のトピックスも取り上げられます。

私たちは、どんな話題でも児童を子供扱いせず、正面からきちんと説明するようにし、その上で意見発表やエッセイ・ライティング、話し合いなどをするようにしています。それは、特定の価値観や偏狭な考え方に振り回されない、世界のどこに行っても活躍できる“自立した人材”を育てていくという広尾学園の理念でもあります。英語補習校は元より、英会話学校ではありませんし、英語保持教室でもないのです。しかし、ご批判には謙虚でいたいと思っています。

<http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Eigo-Hoshuko-J.htm>

### 広尾学園中学校高等学校

(前、順心女子学園中学校高等学校)

〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14

TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192

[www.hiroogakuen.ed.jp](http://www.hiroogakuen.ed.jp)



4月の新学年を迎えて、大忙しの広尾学園からのレポートです。本当にいろんなことが、いっぺんに起きていたので「目が離せない学校」です。

私の目から見ると、学校の色々な動きは「学習スキル」でまとめる事ができるのですが、いかがでしょうか？

帰国生・インター生の持っているスキルが学校内に徐々に広がり始めてきた。その結果、これまでなかった成果が出てき始めている。初め懐疑的だった先生達もその威力を感じ始めている。学校の中の全員が変化を感じ、学校全体の力となっている。

最近、何度か学校を訪問して、「目が離せない」そう感じています。